

別表：評価指標およびアセスメント・プラン

1. 大学全体レベル

1.1 学修成果・教育成果の評価指標

入学前・入学直後 (AP)	在学中 (CP)	卒業時・卒業後 (DP)
<ul style="list-style-type: none"> 入学試験結果 入学時学力診断テスト結果 (国語、英語、数学) 標準修業年限卒業率 累積 GPA 	<ul style="list-style-type: none"> 履修単位数 修得単位数 単位取得率 年度 GPA 成績分布 休学率 留年率 退学・除籍率 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業率 標準修業年限卒業率 就職率 累積 GPA 教職取得 資格取得
	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学修に関する実態調査 (満足度、学修時間等) 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時調査 (満足度、到達目標の達成度等)

※ 上段は定量的指標 (客観データ)、後段は定性的指標 (主観データ) を示す。

1.2 アセスメント・プラン (実施・検証体制)

1.2.1 入学前・入学直後 (入学者受入れの方針)

指標	時期	頻度	対象	部門	結果の分析方法および活用方針
入学試験結果	4～9月	毎年	新入生	入学部	<ul style="list-style-type: none"> 入学者の学力傾向を把握し、アドミッション・ポリシーの妥当性を検証する。 高校での学修内容と大学教育との接続状況を把握し、入試制度の見直しに資する。
入学時学力診断テスト結果 (国語、英語、数学)	5月	毎年	新入生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学生の基礎学力を把握し、初年次教育の内容やレベル設定に反映させる。 診断結果に基づき、補充・補習教育の必要な学生を早期に抽出し、学修支援に活用する。 入学後の学修成果との関係を検証し、学力形成の過程を分析する。
標準修業年限卒業率	4～9月	毎年	前年度在学学生	入学部	<ul style="list-style-type: none"> 入試種別ごとの標準修業年限卒業率を比較・検証し、著しく卒業率が低い傾向が見られる場合には、入試制度の在り方や定員配分の見直し、合格者数の調整を含めた制度改善を検討する。
累積 GPA	4～9月	毎年	前年度在学学生	入学部	<ul style="list-style-type: none"> 入試種別ごとの累積 GPA を比較・検証し、著しく成績が低い傾向が見られる場合には、入試制度の在り方や定員配分の見直し、合格者数の調整を含めた制度改善を検討する。

1.2.2 在学中 (教育課程編成・実施の方針)

評価指標	時期	頻度	対象	部門	結果の分析方法および活用方針
履修単位数	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学修状況および意欲を把握する基礎データとして活用する。 学年ごとの履修傾向を分析し、カリキュラムの妥当性を検証する。 過少履修が確認された場合、履修指導や学修支援に活かす。
修得単位数	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学修成果を定量的に把握し、教育の到達状況を評価する基本指標である。 学年別の修得状況を分析し、教育課程および学修支援体制の適正性を検証する。 一定水準に達していない学生に対しては、早期支援を行う体制作りを活用する。
単位取得率	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 履修単位に対する修得割合を示し、教育成果を定量的に把握する指標である。 学年ごとの科目の適正さや難易度の偏りを分析し、カリキュラム改善に役立てる。 単位取得率の低い学生を抽出し、学修支援や履修指導に活用する。
年度 GPA	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの学修成果および学力水準を客観的に評価する指標である。 年度 GPA の変動や差異を検証し、教育課程や授業内容の改善に資する。 年度 GPA の低い学生に対しては、早期の学修支援を実施する。
成績分布	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの成績傾向および授業の難易度を把握し、教育改善に活用する。 成績の偏りや極端な偏差を検出し、評価方法の見直しに活かす。 学修支援が必要な学生を早期に発見し、適切な対応を促す。
休学率	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学修継続状況の全体的傾向を把握する指標である。 休学が多い学生層を特定し、早期支援の強化に用いる。 学修支援制度の適切性を検証し、改善につなげる。
留年率	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学修の進捗状況や課題の早期発見に役立つ指標である。 留年リスクの高い学生に対する個別支援の基礎資料として活用する。
退学・除籍率	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 退学・除籍の状況を把握し、課題の抽出に活かす。 退学率が高まった場合には原因分析を行い、学修支援策を講じる。
学生の学修に関する実態調査 (満足度、学修時間等)	4～9月	毎年	前年度在学学生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学修実態の現状を可視化する。 課題を明らかにし、学修支援策の企画・強化に役立てる。

1.2.3 卒業時・卒業後 (卒業認定・学位授与の方針)

評価指標	時期	頻度	対象	部門	結果の分析方法および活用方針
卒業率	4～9月	毎年	前年度4年生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 年度および学部別の卒業率の推移を把握し、他大学との比較を実施する。 卒業率が低下している年度や学部を特定し、その背景および要因について分析を行う。 分析結果を踏まえ、教育課程の見直しおよび学生支援体制の強化に反映させる。
標準修業年限卒業率	4～9月	毎年	前年度4年生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限卒業率の状況を年度・学部別に把握し、比較分析を行う。 標準修業年限を超過した学生の実態を調査し、学修支援体制を含む課題を抽出する。 分析結果を踏まえ、学生の計画的な学修支援体制の整備および改善を推進する。

評価指標	時期	頻度	対象	部門	結果の分析方法および活用方針
就職率	4～9月	毎年	前年度 4年生	就職部	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の就職状況について、業種・職種別に分類し、年度・学部別の推移を把握する。 就職率の変動要因や学生の希望との乖離を分析し、課題や改善点を明確化する。 分析結果をもとに、キャリア支援の充実および産業界との連携強化に資する施策を検討・実施する。
累積 GPA	4～9月	毎年	前年度 卒業生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 累積 GPA を、在学期間における学修成果の蓄積状況を示す指標として位置づけ、教育の到達度を客観的に評価する。 卒業時点での学修成果を把握し、学位授与の妥当性の検証に活用する。 累積 GPA の推移や分布を分析し、学生の学修行動の傾向を把握するとともに、学修支援の方策検討に資する基礎資料とする。
教職取得	4～9月	毎年	前年度 卒業生	教職 センター	<ul style="list-style-type: none"> 年度および学部別に、教職課程単位の取得状況を把握し、その推移を継続的に分析する。 支援施策の実施状況と取得成果の関係を検証し、取得率向上に向けた課題および改善点を明確化する。 分析結果を教育課程や学修支援体制の見直しに反映し、教職取得の促進に資する具体的な取り組みを推進する。
資格取得	4～9月	毎年	前年度 卒業生	共通教育 センター	<ul style="list-style-type: none"> 年度および学部別に、資格課程単位の取得状況を把握し、その推移を継続的に分析する。 支援施策の実施状況と取得成果の関係を検証し、取得率向上に向けた課題および改善点を明確化する。 分析結果を資格課程や学修支援体制の見直しに反映し、資格取得の促進に資する具体的な取り組みを推進する。
卒業時調査（満足度、到達目標の達成度等）	4～9月	毎年	前年度 卒業生	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 定量的な満足度調査結果と、自由記述による定性的な意見を統合的に分析し、教育の強みと改善課題を把握する。 学生の意見やニーズを的確に捉え、教育内容の充実および学修支援体制の改善に活用する。 調査結果は関係部局間で共有し、教育の透明性を確保するとともに、質的向上に向けた継続的な改善に資する取り組みを推進する。

2. 学位プログラムレベル（学部・学科単位）

2.1 学修成果・教育成果の評価指標

i. 全学共通指標

入学前・入学直後（AP）	在学中（CP）	卒業時・卒業後（DP）
<ul style="list-style-type: none"> 入学試験結果^{注1} 入学時学力診断テスト結果（国語、英語、数学） 標準修業年限卒業率 累積 GPA 	<ul style="list-style-type: none"> 履修単位数 修得単位数 単位取得率 年度 GPA 成績分布 休学率 留年率 退学・除籍率 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業率 標準修業年限卒業率 就職率 累積 GPA 教職取得^{注2} 資格取得^{注2}
	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学修に関する実態調査（満足度、学修時間等） 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時調査（満足度、到達目標の達成度等）

※ 上段は定量的指標（客観データ）、後段は定性的指標（主観データ）を示す。

注1 法学部および法律学科は除く

注2 観光まちづくり学部および観光まちづくり学科は除く

ii. 学部・学科独自指標

① 文学部および文学部全学科共通

入学前・入学直後（AP）	在学中（CP）	卒業時・卒業後（DP）
	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の演習・卒業論文希望調査 	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の卒業論文の評価

② 経済学部および経済学部全学科共通

入学前・入学直後（AP）	在学中（CP）	卒業時・卒業後（DP）
	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニング科目アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 経済学部卒業時アンケート

③ 神道文化学部および神道文化学科共通

入学前・入学直後（AP）	在学中（CP）	卒業時・卒業後（DP）
	<ul style="list-style-type: none"> 神職課程履修者数 学部神社実習生数 神社に関する基礎知識試験 	
<ul style="list-style-type: none"> 新入生意識調査アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 修学意欲に関する各種調査 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生アンケート

④ 観光まちづくり学部および観光まちづくり学科共通

入学前・入学直後（AP）	在学中（CP）	卒業時・卒業後（DP）
		<ul style="list-style-type: none"> 卒研終了率 卒研形式比率 修得単位数 最終 GPA（講義） 最終 GPA（演習ゼミ）
<ul style="list-style-type: none"> 新入生アンケート 		

※ 上段は定量的指標（客観データ）、後段は定性的指標（主観データ）を示す。

2.2 アセスメント・プラン（実施・検証体制）

以下の表に示す各アセスメントの実施、結果の分析および活用は、当該教育課程を所管する学部・学科が主体となっており、必要に応じて関連部門と連携しながら、教育課程全体の改善に取り組む。

2.2.1 入学前・入学直後（入学者受入れの方針）

i. 全学共通

指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
入学試験結果 ^{注1}	4～9月	毎年	新入生	<ul style="list-style-type: none"> 入学者の学力傾向を把握し、アドミッション・ポリシーの妥当性を検証する。 高校での学修内容と大学教育との接続状況を把握し、入試制度の見直しに資する。
入学時学力診断テスト結果（国語、英語、数学）	5月	毎年	新入生	<ul style="list-style-type: none"> 学生の基礎学力を把握し、初年次教育の内容やレベル設定に反映させる。 診断結果に基づき、補充・補習教育の必要な学生を早期に抽出し、学修支援に活用する。 入学後の学修成果との関係を検証し、学力形成の過程を分析する。
標準修業年限卒業率	4～9月	毎年	前年度在学学生	<ul style="list-style-type: none"> 入試種別ごとの標準修業年限卒業率を比較・検証し、著しく卒業率が低い傾向が見られる場合には、入試制度の在り方や定員配分の見直し、合格者数の調整を含めた制度改善を検討する。
累積 GPA	4～9月	毎年	前年度在学学生	<ul style="list-style-type: none"> 入試種別ごとの累積 GPA を比較・検証し、著しく成績が低い傾向が見られる場合には、入試制度の在り方や定員配分の見直し、合格者数の調整を含めた制度改善を検討する。

注1 法学部および法律学科は除く

ii. 学部・学科独自指標

① 神道文化学部および神道文化学科共通

指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
新入生意識調査アンケート	4～9月	毎年	新入生	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学問上の関心や資格取得の希望状況を把握する。 カリキュラムの妥当性等の検証の際の参考とする。

② 観光まちづくり学部および観光まちづくり学科共通

指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
新入生アンケート	4月	毎年	新入生	・入学目的や AP3（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）について、主に AO 型以外の学生の入試時点の認識について、不一致度合を検証し、入試広報の改善に役立てる。

2.2.2 在学中（教育課程編成・実施の方針）

i. 全学共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
履修単位数	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学生の学修状況および意欲を把握する基礎データとして活用する。 ・学年ごとの履修傾向を分析し、カリキュラムの妥当性を検証する。 ・過少履修が確認された場合、履修指導や学修支援に活かす。
修得単位数	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学生の学修成果を定量的に把握し、教育の到達状況を評価する基本指標である。 ・学年別の修得状況を分析し、教育課程および学修支援体制の適正性を検証する。 ・一定水準に達していない学生に対しては、早期支援を行う体制作りに活用する。
単位取得率	4～9月	毎年	前年度在学学生	・履修単位に対する修得割合を示し、教育成果を定量的に把握する指標である。 ・学年ごとの科目の適正さや難易度の偏りを分析し、カリキュラム改善に役立てる。 ・単位取得率の低い学生を抽出し、学修支援や履修指導に活用する。
年度 GPA	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学年ごとの学修成果および学力水準を客観的に評価する指標である。 ・年度 GPA の変動や差異を検証し、教育課程や授業内容の改善に資する。 ・年度 GPA の低い学生に対しては、早期の学修支援を実施する。
成績分布	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学年ごとの成績傾向および授業の難易度を把握し、教育改善に活用する。 ・成績の偏りや極端な偏差を検出し、評価方法の見直しに活かす。 ・学修支援が必要な学生を早期に発見し、適切な対応を促す。
休学率	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学修継続状況の全体的傾向を把握する指標である。 ・休学が多い学生層を特定し、早期支援の強化に用いる。 ・学修支援制度の適切性を検証し、改善につなげる。
留年率	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学修の進捗状況や課題の早期発見に役立つ指標である。 ・留年リスクの高い学生に対する個別支援の基礎資料として活用する。
退学・除籍率	4～9月	毎年	前年度在学学生	・退学・除籍の状況を把握し、課題の抽出に活かす。 ・退学率が高まった場合には原因分析を行い、学修支援策を講じる。
学生の学修に関する実態調査（満足度、学修時間等）	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学修実態の現状を可視化する。 ・課題を明らかにし、学修支援策の企画・強化に役立てる。

ii. 学部・学科独自指標

① 文学部および文学部全学科共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
各学科の演習・卒業論文希望調査	4～9月	毎年	前年度在学学生	・学生の志向性等を把握し、教育の内容やカリキュラム編成等に資する。

② 経済学部および経済学部全学科共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
アクティブラーニング科目アンケート	4～9月	毎年	前年度在学学生	・アクティブラーニング科目の受講生の学習の修得状況等を把握し、本科目についての改善等に役立てる。

③ 神道文化学部および神道文化学科共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
神職課程履修者数	4～9月	毎年	前年度在学学生	・卒業後の主な進路である神社奉職の希望者を把握する指標である。 ・履修者の状況を把握し、必要に応じ、資格取得のための学修支援を講じる。 ・神職課程の点検に活用する。
学部神社実習者数	4～9月	毎年	前年度在学学生	・授業履修時間帯や学修時間等に関して実習先と取り決めのある学部神社実習生を把握するため。 ・履修者の状況を把握し、必要に応じ、学修支援を講じる。 ・神職課程の点検に活用する。
神社に関する基礎知識試験	4～9月	毎年	前年度1年生	・学生の入学時と1年次終了時の学力水準を客観的に評価する。 ・神道文化系科目の教育課程や授業内容の改善に役立てる。
修学意欲に関する各種調査	4～3月	毎年	在学学生	・奉職活動、就職活動等に対する在学生の意識を把握し、在学生の今後の学修支援に役立つ課外講座の実施等に役立てる。

2.2.3 卒業時・卒業後（卒業認定・学位授与の方針）

i. 全学共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
卒業率	4～9月	毎年	前年度4年生	・年度および学部別の卒業率の推移を把握し、他大学との比較を実施する。 ・卒業率が低下している年度や学部を特定し、その背景および要因について分析を行う。 ・分析結果を踏まえ、教育課程の見直しおよび学生支援体制の強化に反映させる。
標準修業年限卒業率	4～9月	毎年	前年度4年生	・標準修業年限卒業率の状況を年度・学部別に把握し、比較分析を行う。 ・標準修業年限を超過した学生の実態を調査し、学修支援体制を含む課題を抽出する。 ・分析結果を踏まえ、学生の計画的な学修支援体制の整備および改善を推進する。
就職率	4～9月	毎年	前年度4年生	・卒業生の就職状況について、業種・職種別に分類し、年度・学部別の推移を把握する。 ・就職率の変動要因や学生の希望との乖離を分析し、課題や改善点を明確化する。 ・分析結果をもとに、キャリア支援の充実および産業界との連携強化に資する施策を検討・実施する。

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
累積 GPA	4～9月	毎年	前年度卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 累積 GPA を、在学期間における学修成果の蓄積状況を示す指標として位置づけ、教育の到達度を客観的に評価する。 卒業時点での学修成果を把握し、学位授与の妥当性の検証に活用する。 累積 GPA の推移や分布を分析し、学生の学修行動の傾向を把握するとともに、学修支援の方策検討に資する基礎資料とする。
教職取得 ^{注2}	4～9月	毎年	前年度卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 年度および学部別に、教職課程単位の取得状況を把握し、その推移を継続的に分析する。 支援施策の実施状況と取得成果の関係を検証し、取得率向上に向けた課題および改善点を明確化する。 分析結果を教育課程や学修支援体制の見直しに反映し、教職取得の促進に資する具体的な取り組みを推進する。
資格取得 ^{注2}	4～9月	毎年	前年度卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 年度および学部別に、資格課程単位の取得状況を把握し、その推移を継続的に分析する。 支援施策の実施状況と取得成果の関係を検証し、取得率向上に向けた課題および改善点を明確化する。 分析結果を資格課程や学修支援体制の見直しに反映し、資格取得の促進に資する具体的な取り組みを推進する。
卒業時調査（満足度、到達目標の達成度等）	4～9月	毎年	前年度卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 定量的な満足度調査結果と、自由記述による定性的な意見を統合的に分析し、教育の強みと改善課題を把握する。 学生の意見やニーズを的確に捉え、教育内容の充実および学修支援体制の改善に活用する。 調査結果は関係部局間で共有し、教育の透明性を確保するとともに、質的向上に向けた継続的な改善に資する取り組みを推進する。

注2 観光まちづくり学部および観光まちづくり学科は除く

ii. 学部・学科独自指標

① 文学部および文学部全学科共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
各学科の卒業論文の評価	4～9月	毎年	前年度卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の評価状況を把握し、学位授与の妥当性の検証に活用する。 卒業論文の評価をとおして、教育内容の充実および学修支援体制の改善に活用する。

② 経済学部および経済学部全学科共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
経済学部卒業時アンケート	4～9月	毎年	前年度卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時の学部および学生の評価状況を把握し、学修状況の適切性の検証に活用する。 この評価を通じて、教育内容やカリキュラムの充実および改善に活用する。

③ 神道文化学部および神道文化学科共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
卒業生アンケート	4～9月	毎年	前年度卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 学生による学修時間確保や学力修得度唐の自己評価を把握する。 カリキュラムの妥当性等の検証の際の参考とする。

④ 観光まちづくり学部および観光まちづくり学科共通

評価指標	時期	頻度	対象	結果の分析方法および活用方針
卒研終了率	4～9月	毎年	前年度在学学生	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究を最終的に修了する学生比率を把握し、対応等を検討する。
卒研形式比率	4～9月	毎年	前年度在学学生	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の形式について、論文：計画：制作の比率を把握する。 形式選択の傾向を継続的に把握する。
修得単位数	4～9月	毎年	前年度在学学生	<ul style="list-style-type: none"> 基準単位を超過して修得する学生数、超過単位の平均値と分散を把握し、履修科目の検討材料とする。
最終 GPA（講義）	4～9月	毎年	前年度在学学生	<ul style="list-style-type: none"> 最終 GPA のうち、講義科目に関する値の平均と分散を把握し、対応を検討する。
最終 GPA（演習ゼミ）	4～9月	毎年	前年度在学学生	<ul style="list-style-type: none"> 最終 GPA のうち演習・ゼミ科目に関する値の平均と分散を把握し、対応を検討する。

3. 授業科目レベル（授業科目単位）

3.1 学修成果・教育成果の評価指標

入学前・入学直後（AP）	在学中（CP）	卒業時・卒業後（DP）
	・授業評価アンケート	

※ 上段は定量的指標（客観データ）、後段は定性的指標（主観データ）を示す。

※ 授業科目レベルでは、主として在学中（CP）における学修成果・教育成果の把握を行う。

3.2 アセスメント・プラン（実施・検証体制）

以下の表に示すアセスメントの実施、結果の分析および活用は、当該授業を担当する教員が主体となり、必要に応じて所属する学部・学科と連携しながら、当該授業の教育内容および教育方法の改善に取り組む。

3.2.1 在学中（教育課程編成・実施の方針）

評価指標	時期	頻度	対象	部門	結果の分析方法および活用方針
授業評価アンケート	4～9月	毎年	前年度在学学生	授業担当教員	<ul style="list-style-type: none"> 定量評価と自由記述を分析し、授業の強みと課題を明確化する。 学生へのフィードバックを通じて、教育方法の改善を促進する。 アンケート結果を踏まえ、授業内容・運営の質の向上に継続的に活用する。